

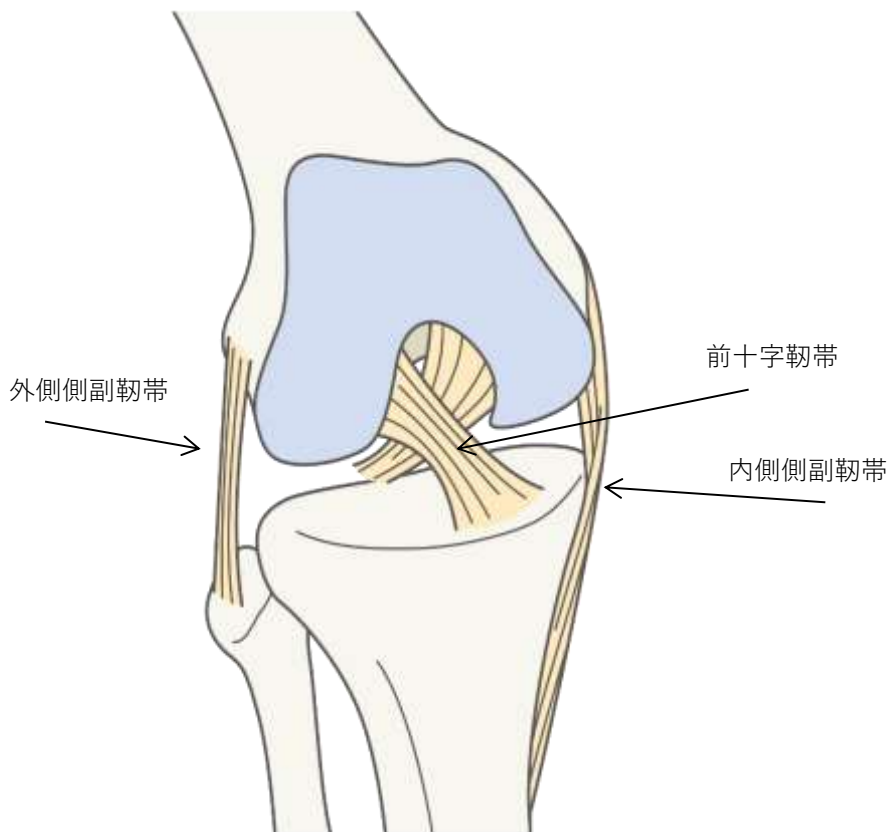
<膝関節の治療>

膝関節のトータルサポート

膝関節の外傷、疾患については、診察、検査、治療(手術)、リハビリテーションを集約的に行っています。

「前十字靭帯損傷」

前十字靭帯は、大腿骨と脛骨をつないでおり、膝を安定させる役割があります。ジャンプの着地や、膝をねじったときに切れます。



(症状)

はじめは、膝のはれ、痛み、可動制限がありますが、次第におさまっていきます。時間がたつと、膝がずれる症状がでることがあります。

(診断)

診察、レントゲン、MRI 検査などで診断します。

(治療)

靭帯が切れたまま放置しておくと、後で半月板や軟骨の損傷につながるため、手術で靭帯を再建します。

1 手術を受ける前に

手術は、けがによるはれ、痛みが軽減して、曲げ伸ばしがスムーズにできる程度に回復した時期に行います。通常、受傷後1か月前後が目安になります。

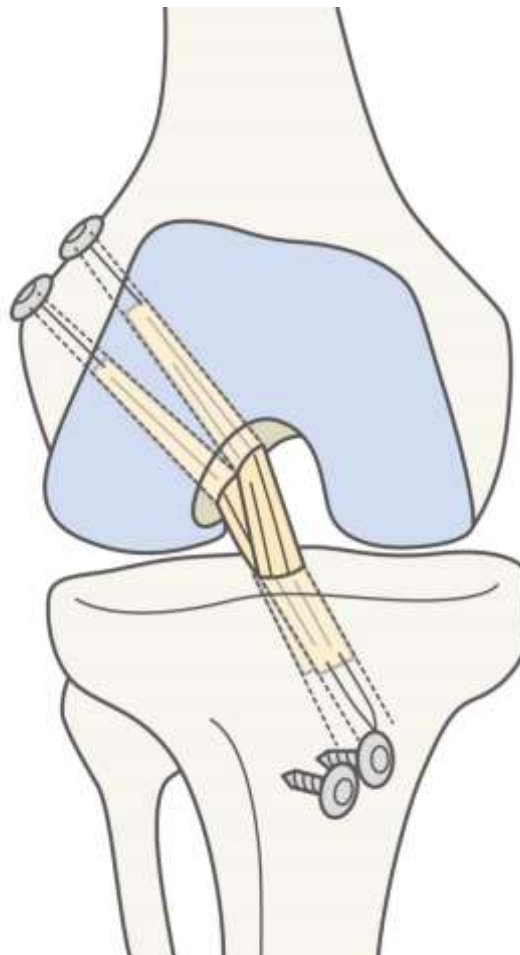
2 手術について

前十字靭帯は、切れた端を縫い合わせても癒合しません。そのため、採取しても影響のない、自分の組織を利用します。通常、太ももの内側にあるすじを(ハムストリング)採取して、前十字靭帯の代わりになるように移植します。手術は内視鏡(関節鏡)を用いて行います。

3 手術後の経過

松葉杖は、手術後、約1か月使用します。軽いジョギングは手術後3~4か月から、スポーツへの復帰は8~12か月をめどにしています。

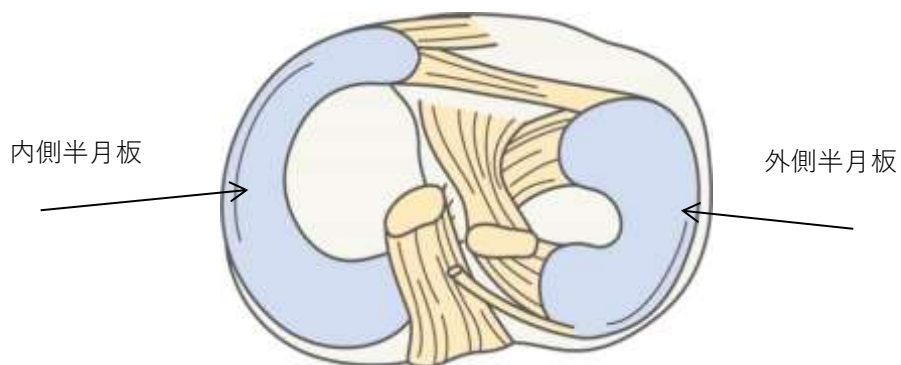
靭帯再建術



レントゲン

「半月板損傷」

半月板は、膝の中にあるクッションの組織で、内側と外側に C 型のものが1個ずつあります。ケガや加齢変化で切れることがあります。半月板は、軟骨の負担を軽減する役割があります。



(症状)

痛みやひっかかる感じがすることがあります。切れた半月板が関節にはさまると、膝が動かなくなる現象(ロッキング)を起こすことがあります。

(診断)

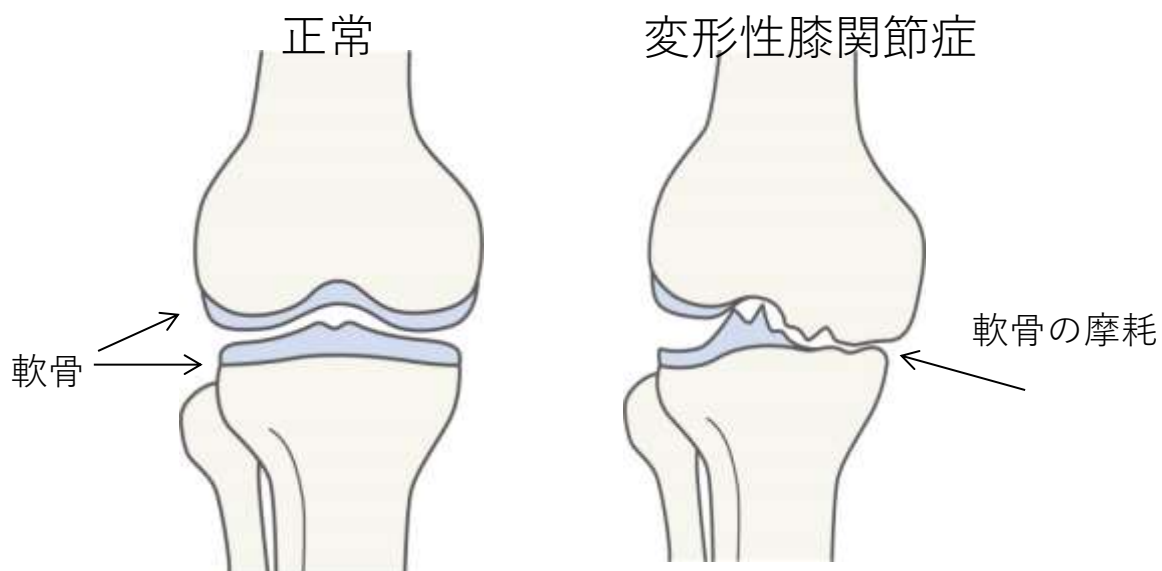
診察、レントゲン、MRI 検査などで診断します。

(治療)

症状が継続する場合は内視鏡(関節鏡)による手術の適応となります。全身麻酔をかけて、細い棒状のカメラを関節に挿入して観察します。半月板の切れ方により、部分的に切り取る(部分切除術)か、縫合術を行います。

「変形性膝関節症」

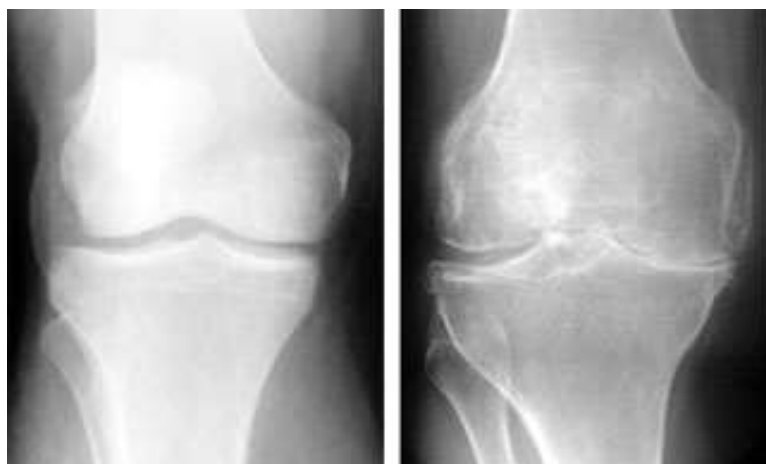
変形性膝関節症は、おもに加齢変化により、軟骨がすり減る病気です。関節の変形や痛み、可動制限などが出現します。



(診断)

診察、レントゲン、MRI 検査などで診断します。

レントゲン



健康な膝関節

変形性膝関節症

(治療)

消炎鎮痛剤の内服、関節内注射、リハビリテーションなどを行います。

経過により手術が必要となることがあります。

(手術療法)

1 内視鏡(関節鏡)

切れた半月板の処置、遊離した骨、軟骨の破片を取り除くことができます。

2 骨切り術

膝の周辺の骨を切って、変形を治す手術です。変形が少なめで、年齢が比較的若いかたが対象となります。スポーツ活動を継続したい方にも適応となります。

レントゲン



手術前

手術後

3 人工膝関節置換術

軟骨の摩耗がすすみ、変形が強いかたに行います。年齢が比較的高い方が対象となります。上下の骨をけずり、人工関節を挿入します。

レントゲン



手術前



手術後